

令和5年度 FD・SD ウィークの実施結果について（報告）

高知大学学び創造センター

1. FD・SD ウィークの趣旨と目標

【趣旨】

本学の教育の質を高めるため、各学部3～5授業程度を選んで公開授業とし、教員間で公開授業を相互参観する。これによって、

- (1) 授業参観を通じて、参観する側の教員が授業についての内省を通じた教育改善を図る。
- (2) 授業を公開する側の教員が、授業改善に資するフィードバックを得る。
- (3) オンライン授業に関するFDを兼ねるものとする。

また、公開授業は職員の参観も受け入れることとし、職員が本学の教育の一端に触れる機会を提供することで、教職協働の促進を図る。

【目標】

(1) 授業参観教員

参観した授業から得られた気づきや新たな教授方法などを参観者が内省し、自らの授業改善・教育改善に活かしていく。

(2) 授業公開教員

参観者から得たフィードバックを、次年度以降の授業改善に活かしていく。

(3) 職員

公開授業を参観することで、本学が行う教育の一端に触れ、その経験を日常の業務に反映させていく。

2. 実施期間と開講科目数

期 間：令和5年6月12日（月）～令和5年7月21日（金）

科目数：38科目（延べ96回開講 ※非同期のオンライン授業は1回として集計）

3. 参加者数（参観申込者数、授業参観記録登録者数）

本年度のFD・SD ウィークの授業参観は、Web ページ上の集計で教職員合わせて延べ78人（教員55人、職員23人）の申し込みがあり、参観後の授業参観記録登録者数は延べ66人（教員45人、職員21人）であった。（昨年度実績：申込者102人（教員60人、職員42人）、授業参観記録登録者84人（教員48人、職員36人））

科目ごとの参観申込者数及びコメント登録者数（延べ人数）

No.	時間割コード	科目名	授業形態	参観申込者数			コメント登録者数		
				教員	職員	計	教員	職員	計
1	01115	課題探求実践セミナー（人文社会科学部）	対面・オンライン同期	1		1	1		1
2	02013	文学と社会	オンライン非同期	5	1	6	2	1	3
3	02015	文学と社会	対面	1		1	1		1
4	03045	障害者支援入門	対面		1	1		1	1
5	05303	中国語Ⅰ	対面		1	1		1	1
6	07160	ピア・サポート理論と実践	オンライン非同期	2	3	5	1	2	3
7	25017	日本語学概論Ⅰ	対面	5	1	6	5	1	6
8	25082	文化人類学	オンライン同期		2	2		1	1
9	28024	農業経済論	オンライン非同期	2	1	3	1	1	2
10	40006	初等理科指導法	対面		1	1		1	1
11	41156	社会的養護Ⅰ	対面	1		1	1		1
12	42509	彫刻応用	対面	1		1	1		1
13	42611	個人スポーツ実技〔陸上競技〕	対面	1		1	1		1
14	49011	生徒指導・進路指導	対面		2	2		2	2
15	51204	統合医学Ⅱ	対面	1		1			
16	51300	統合医学Ⅲ	対面	1		1	1		1
17	51322	医療倫理Ⅱ	対面	1		1	1		1
18	52203	小児看護学概論	対面	4		4	4		4
19	60039	経営組織論	対面		4	4		4	4
20	60044	行政実務講座	オンライン同期	1	1	2	1	1	2
21	60057	国際ビジネス展開論	対面		1	1		1	1
22	70511	理工系数学(論理と集合)	対面	4		4	2		2
23	71629	物理化学演習	対面	2		2	2		2
24	72110	データベースシステム	対面	6		6	5		5
25	73102	動物分類学	オンライン非同期	1	1	2	1	1	2
26	73102	動物分類学	対面	1		1	1		1
27	74125	物理化学演習	対面	1		1	1		1
28	81003	水資源学	オンライン非同期	3	2	5	2	2	4
29	81030	蔬菜園芸学	対面	1		1	1		1
30	81063	植物資源機能科学	対面	1		1	1		1
31	82043	微生物遺伝子工学	対面	1		1	1		1
32	83021	海洋生物学概論	オンライン非同期	5	1	6	5	1	6
33	83101	魚病学	対面	1		1	1		1
34	83220	資源無機化学	対面	1		1	1		1
合計				55	23	78	45	21	66

4. 授業参観記録

授業参観後に、参観者が Web 上で授業参観記録を作成した。その質問項目（記述コメントおよび選択回答）と回答の要旨を以下に示す。

【教員】

（１）参観した授業について、教員の授業方法や学生の学習形態等について、特に印象に残ったことはどんなことですか。（自由記述式）

対面授業の参観数が増えてきているが、コロナ禍以前の水準には戻っていない。これは公開授業数に占める対面授業の割合がコロナ禍以前の状況まで戻っていないことが一因と思われる。一方で、オンライン授業の参観を参観することは、対面授業でのハイブリッド化や、オンライン授業での様々な工夫につながっていることが窺える。対面授業では、アクティブラーニングを導入している授業が増えており、オンラインシステムを使った工夫が参観者の参考となっていることがコメントから読み取れる。また、オンライン授業では、単に授業動画を公開するだけでなく、課題の提示や提出、確認テストなどをうまく組み合わせて動画の視聴だけで終わらない工夫がなされている授業が増えており、参観者の参考となっていることが窺える。

（２）授業を参観して、あなたが実施している授業方法や学生の学習形態等についてあらたに気づいたことはどんなことですか。（自由記述式）

対面授業での課題のフィードバック、授業中の活動の入れ方などが参考になったことが窺える。また、これらを行なっている授業では、そこにかかる時間配分も多いことがコメントから読み取れる。一方で、このような活動よりも、教員による講義が占めるウェイトが大きい授業も多くあることも窺える。

（３）参観した授業での授業方法や学生の学習形態等で、自分の授業にも取り入れてみたい、あなたの授業に取り入れることが可能だと思うことはどんなことですか。（自由記述式）

オンライン授業、対面授業ともに、教員が開設する時間を適当に区切っていくつかに分け、その都度まとめをする、演習問題にチャレンジする、ペアワークなどを取り入れるなどの工夫が、参考になり、また取り入れてみたいという記述が多くみられた。またフィードバックに時間をかけている点やフィードバックの観点についての記述がみられた。

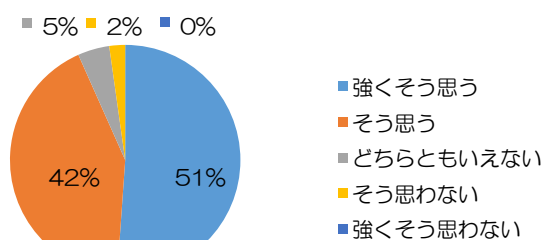
（４）参観した授業の授業方法や学習形態について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。（自由記述式）

オンライン授業、対面授業ともプレゼン資料の作り方についてのコメントが見られた。学生と同じ目線で見るとその気づきがあったと思われる。ワークの使い方や時間配分、話し方、話す速度など、自分との違いについて書かれたコメントが多く見られた。

（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。（５段階択一式）

93%の肯定的な回答があり、本取組は、意識改革に役立つものであったことが理解できる。

（５）この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。



	度数	割合
強くそう思う	23	51
そう思う	19	42
どちらともいえない	2	4
そう思わない	1	2
強くそう思わない	0	0
合計	45	100

【職員】

(1) 参観した授業で、講義の教育方法や学習形態等について、特に印象に残ったことはどのようなことですか。(自由記述式)

オンデマンド型授業やアクティブラーニング型授業は、その手法が興味深かったとの意見が多くみられた。オンデマンド型授業も、講義を録画した動画を流すだけでなく、双方向性や受講生同士の交流を担保する仕掛けが参観者の関心を集めていたことが、コメントから読み取れる。従来型の講義でも、その内容については初めて聞くもので興味深いというコメントが見受けられた。

(2) 参観した授業で、学生の様子について気がついたことはどのようなことですか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です)

オンデマンド型授業でも、双方向性を担保している授業では、学生の積極性が感じられたことが窺える。アクティブラーニングでは、学生のコミュニケーションの取り方にまで言及しているものが見られた。講義型授業では、受講態度が非常に真面目な反面、積極的な発言はなかったとか、静かだけど集中力を切らしている学生が見受けられたなどの指摘があった。

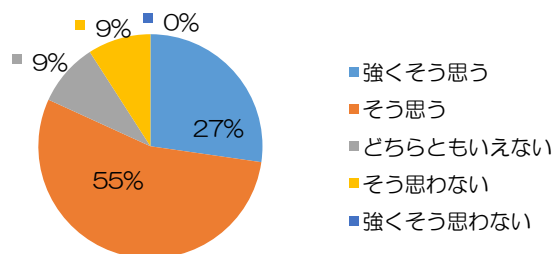
(3) 参観した授業について、授業担当者へのコメントがあれば書いてください。(自由記述式)

オンデマンド型授業やアクティブラーニング型授業では、先生方の様々な工夫や仕掛けについて、また講義型授業では特にその内容について参考になったとのコメントが多くあった。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学習に適していると思いませんか。(オンライン授業を参観された方は回答不要です) (5段階択一式)

この設問に対して 82%が肯定的な回答であった。昨年度の 87%からやや低下している。

(4) 参観が行われた教室の環境の整備や設備について、学修に適していると思いませんか。

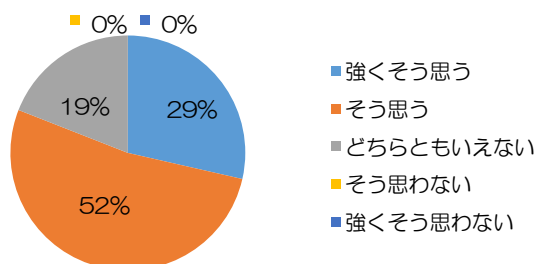


	度数	割合
強くそう思う	3	27
そう思う	6	55
どちらともいえない	1	9
そう思わない	1	9
強くそう思わない	0	0
	11	100

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は 81%だった。授業参観は自分の業務を考える上で参考になっていることが理解できる。

(5) 授業を参観して、高知大学の教育（授業）を自らの業務に関連づけて考えましたか。

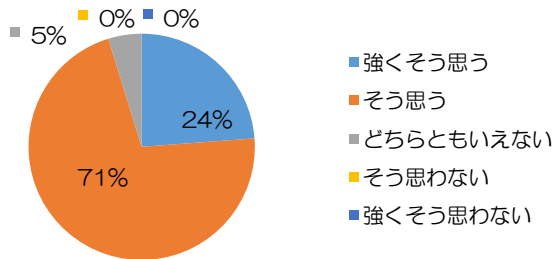


	度数	割合
強くそう思う	6	29
そう思う	11	52
どちらともいえない	4	19
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	21	100

(6) この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。(5段階択一式)

肯定的回答は95%であり、授業参観が大学職員として業務を行う上で、良い経験となったことが窺える。

(6) この取組は、あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。



	度数	割合
強くそう思う	5	24
そう思う	15	71
どちらともいえない	1	5
そう思わない	0	0
強くそう思わない	0	0
	21	100

(7) (4) ~ (6) の回答の理由や、来年度の本取組の実施に向けての忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせください。(自由記述式)

アクティブラーニング型授業について、他のSD研修でも使えると思うなど、手法に関して高い関心が見受けられた。また教育とは無関係な部署であっても、高知大の教育に触れる良い機会であり、同僚にも参観を促したいなどの記述もあった。

5. 成果について

参観後のアンケート調査の結果から、本企画の趣旨や目標に対する成果として、次のようにまとめられる。

【授業参観教員】

授業参観の成果は、「あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか」という設問に対し、肯定的な回答が93%あり、本取組は一定の効果を得ることができていると捉えることができる。肯定的回答の要因として、アクティブラーニング型授業に触れ、その組み立てやワークの入れ方などが参考になったことや、オンデマンド型授業での双方向性の担保や課題などの工夫、講義型授業でのオンラインシステムの効果的な使用など、様々な工夫が参考になったことによると思われる。

【職員】

本年度の成果は、設問「あなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」から捉えることができる。この設問に対して95%の肯定的な回答を得ており、一定の成果を得られたと捉えることができる。

双方向性を担保したオンデマンド型授業や、アクティブラーニング型授業は、このFD・SDウィークで初めて経験した職員が多かったことがコメントから窺える。そのためこれらの手法には高い関心を持ち、職場の研修とも関連づけて考えるコメントも見られた。講義においても、そのテーマが現在の部署での業務に関連があり、強い関心を抱いたというコメントも見られた。

【全体】

教員設問(5)「この取組は、あなたの授業改善や教員としての意識改革に役立つものでしたか。」、職員設問(6)「この取組はあなたの大学教育への理解の促進や、大学職員としての自分を見つめ直す機会となりましたか。」のいずれも肯定的な回答は90%以上であることから、参観した教職員にとって、FD・SDウィークは有益であったと思われる。しかし、本学の教職員総数を分母とした場合、FD・SDウィークの受講者は決して多いとは言えない状況である。本年度はFD・SDウィークへの参加を呼び掛けるポスターを作成するといった取り組みを行ったが、来年度以降も検討を要する課題である。

メディア授業の開講については、双方向性を担保することなどが要請されているが、対面授業においても、同じことが言える。オンデマンド型授業ですでに様々な工夫を取り入れている授業があり、対面授業でもオンラインシステムを上手に取り入れたいいわゆるハイブリッド型授業もある。対面授業であっても、アクティブラーニングを実践している授業や、講義にワークを挟むタイプのハイブリッド型授業を実践している授業もある。このような取り組みを知ることができるのは、授業を参観する意義と言えよう。